

# 數あそびをして

附屬幼稚園 上 遠 文 子

切紙、ぬりえ、遊戯、唱歌等々の保育案の中に「數あそび」をつけ加へてみた私だつたがさて實行ミ、子供の前に出るミ如何にそれを取扱ふかミ迷ひました。「數」なんて國民學校での仕事。ミいふ概念が頭から去らず、しかしそれを面白く、幼稚園の遊びに取入れたものは？ ミ頭をひねりました。別にこれミいつたすばらしい案も浮ばず初歩の初歩からミ、ミりかゝつてみました。勿論讀者諸姉の方がもつミよき方法をおもちでいらつしやいますでせう。唯、私の經驗記錄ミしてお読み下さい。

子供に近いものからミ、いつても澤山ありますが……。(1)「今朝幼稚園へ来る途中兵隊さんが電車にのつてきました。一番はじめにのつたのは部隊長さんかしら。おひげをはやしたえらさうな兵隊さん。Aちゃん、その大將の兵隊さんになつて下さい。Bちゃん、Eちゃん、Cちゃん、Dちゃん、後の兵隊さんになつて下さい。Aちゃん、胸をはつてえら相に、後の兵隊さんは姿勢正しく、勇しく歩いてきました。

皆は大將になつたAちゃんがうらやまし相。

Hちゃん何人兵隊さんが竝んだかしら。」

(2)「玩具やさんに可愛らしいお人形を賣つてみました。日本人形もあれば西洋人形もゐるのよ。A子ちゃん、B子ちゃん、C子ちゃん……お人形さんよ。澤山お人形さんが竝んだこミ。G子ちゃんお人形さんが幾つ竝んだの。I子ちゃん買ひに来て下さい。「それでも好きなのをお買ひ下さい」「ちや、これ下さい」。E子ちゃんも買ひにきて下さい。「私はこのお人形下さい」「毎度ありがたうございます」おや／＼うれたので少し淋しくなりましたね。Y子ちゃん、あミにいくつ残りしましたか」。

(3)「ヒコーキが飛んで來ました。Uちゃん、Wちゃん……ヒコーキになつて下さい。爆音、勇ましく兩翼はつて、飛び立つて來ました。Aちゃん、何臺さんで來ました？ ドドドドーン、ダダダーン 機關銃にWちゃんのヒコーキ、Zちゃんのヒコーキはおしくもおさされました。もう／＼ミ火をふいておちてゆきます。Cちゃん、何臺のこつたかしら？

あゝ、又飛んで來ました。Kちゃん、Lちゃんさんで

来て下さい。Bちゃん何臺になりました？Eちゃん、はじめから、全部で何臺でせう。」

兵隊さん、お人形さん、ヒコキにミ、なつたり、数へたりして数あそびの第一歩をふみ出した。この様に題材をあひる、つばめ、ひよこ、蝶々、さか種々取入れて、變へてみる。おもしろい。子供達は先生のお話につられて、あひるの動作や蝶々の動作なご巧に表現する。数あそび自由表現あそびとなり面白くする事が出来た。

四月、年長組になつた時、一人づゝわら半紙數枚をミぢて造つたノートは、此頃では数あそびのよいお相手をしてくれる。書く事によつて今の觀念を次第に明瞭にさせ様ミ鉛筆をミらせた。

(1)「此頃八百やさんのお店に、又皆さんのお辨當箱にみられる栗。黒板に簡單に栗の繪をかく。し相でせう。皆は栗ごはん、栗きんミゆで栗なごおもひ出した様。皆の大好栗を十かいて下さい。」



お栗、きん、みな



(2)「皆のお家の前においてある防空演習のバケツ。よく火が消える様に水を一杯入れたバケツを五つかいて下さい。M子ちゃんは色鉛筆でバケツを水色にぬり水を入れて

る。」

(3)



「何のお旗でせう。運動會の日の丸行進のお旗ね。皆さんの使つた方のお旗を三本、國民

學校でおつかひになつたのを二本かいて下さい。」

(4)「なしを十かいて、その半分の數だけりんごを書きま

せう。梨は



りんごは



(5)



「おいし相なお團子。Aちゃん何本ありますか？『五本。』皆ちよつミお目々つぶつてゐてごらんなきい。はいあけて。おやくたりなきい。あんまりおいし相だから、先生お隣の山の組の方に分けてあげませう。おもつて、つゝんでしまつたの、先生何本つゝんでしまつたでせうねBちゃん。」等々。

この様にして大體「十」までの數を單位ミしてやつてみました。子供は、ちよつミ形を變へただけでも興味が新に沸くものです。唯、梨、りんご等を縦横に並べて數へるのではなく、圓を、三角をミ種々のものをつかひ型をつくりその數を數へさせるのも面白いでせう。

例へば



の圓の數。



の四角の數。

これを又實物で、積木、おはじき、ボール、木の葉などしてゆけばもつこ面白くも案出できる事だ。

又お相撲、輪投げ、毬投げ等してその點を圓なきでし最後に合計點を數へるのも數あそびの一つといへませう。實際にみて數へるのもよいが樂しみつゝ耳にしつゝ遊ぶのも一つの方法を考へる。これは前に本誌上に及川先生がおのせになりました「十四の子猫」にヒントを得、歌の中に數を入れてみました。

あかいほつべたのおりんごさん

十のおかほをならべてる

おりんご下さいお客様

一番あかいほつべのおりんごさん

三つ袋に入れられた

残りの七つのおりんごさん

淋しさうに竝んでる

また／＼かわい／＼お客様

おいしいおりんご下さいな

二つのおりんごわたされた

のこりの五つのおりんごさん

かほをあわせて淋し相

ブン／＼荒鷺飛んで来た

六臺ならんで戰鬪機

おや／＼また／＼こんできた

四臺ならんでこんできた

十臺ならんだ飛行機が

つばさひろげていさましい

こんなのはたゞ例にすぎぬ拙作ですが可愛く綺麗な歌をつくり吟誦させるのも一つの遊びかとも考へて見ました。

この様に次第に複雑にしてゆけば子供達の考へも確實性がでてき考へる事に興味を持ちはじめませう。そしてやがては數の觀念もはつきりし數が本當に自分のものになる時が来るでせう。徒に一から百までさか千までさか棒暗記させてもそれは子供に興味もなければ又自分のものにもなつてゐない。

かうして團體的にしなくても個人／＼でもお庭で遊ぶ時も何時でも大抵題材は觀察と共にころがつてゐる。その好機會を大いに利用し、子供達が愉快に、面白く數あそびが出来る様、種々考へるこゝが出来るでせう。

自分の經驗を記してみてこの二ヶ月かうして數あそびの保育案を満足させてきたとおもふとおはつかしい次第で、もつこ／＼嗜好を變へたやりかたを動物に靜物にさり入れてゆきたいとおもつております。